

第6章

豊かな個性と 人間性を育む教育



第1節 教育行政のあゆみ

教育行政の要となる大治町教育委員会は、教育長と4人の委員で構成しています。

定例の教育委員会会議などで、事業や学校運営を話し合い、より良い教育を目指しています。

昭和50（1975）年には、3人の教育委員で運営しており、その中から教育長と教育委員長を選んでいます。教育長は非常勤でした。

昭和60（1985）年10月に、児童生徒の増加などに対応するため、教育委員を5人に増員しました。

平成3（1991）年4月からは、さらに充実した教育行政とするため、教育長を常勤としました。これにより、学校と町との連携が強化され、より深い目配りができるようになりました。

平成27（2015）年4月からは、法

律の改正により、教育委員長が廃止されました。また、それまで教育委員の中から選任していた教育長は、独立した形で任命することとなり、教育委員会の代表となりました。町では、教育長の任期の区切りとなる平成28（2016）年10月に、新しい教育長を任命すると同時に、教育委員長を廃止し、教育長の職務代理者を置きました。

また、教育の目標や施策の方針を「大綱」として定めることになりました。

令和3（2021）年の教育大綱では、「家庭・地域で育て、学校で伸ばし、社会で磨く」を基本理念としました。また、目指す町民の姿を、「郷土を愛し、持てる力を発揮するとともに、未来を見据え創造的に実践する人」としています。



青空のもと 小学校運動会（平成9年）



むかしの暮らしを学ぶ（平成30年）

第2節 すこやかに遊び学ぶ幼児教育

まちの幼児教育施設

町には、私立の幼稚園が2園あります。

大治いずみ幼稚園は、昭和44（1969）年4月に開園しました。

平成20（2008）年度に建て替えられた日当たりのよい園舎と広い園庭で、伸び伸びと過ごすことができます。

ずいよう幼稚園は、昭和45（1970）年に開園しました。

平成4（1992）年に新園舎が完成しました。平成25（2013）年に駐車場を拡張し、平成31（2019）年に第2グラウンドを増設しました。

令和6（2024）年には園舎を増築するなど、施設の充実にも力を入れ、子どもたちに温かく寄り添う教育に努めています。

両園とも、保護者の就労などを考慮して、早朝と夕方、夏休みなどの長期休業中の預かり保育もしています。

昭和50（1975）年には、このほかに大治幼稚園と大治第二幼稚園もありました。この2園は平成13（2001）年に統合し、平成27（2015）年からは幼保連携型認定こども園大治幼稚園となりました。

大治いずみ幼稚園



昭和59年



新築された園舎（令和6年）

ずいよう幼稚園



昭和59年



施設が充実した園舎（令和6年）



大治幼稚園（平成9年）



大治第二幼稚園（平成9年）

表 6-1 町内幼稚園の概要

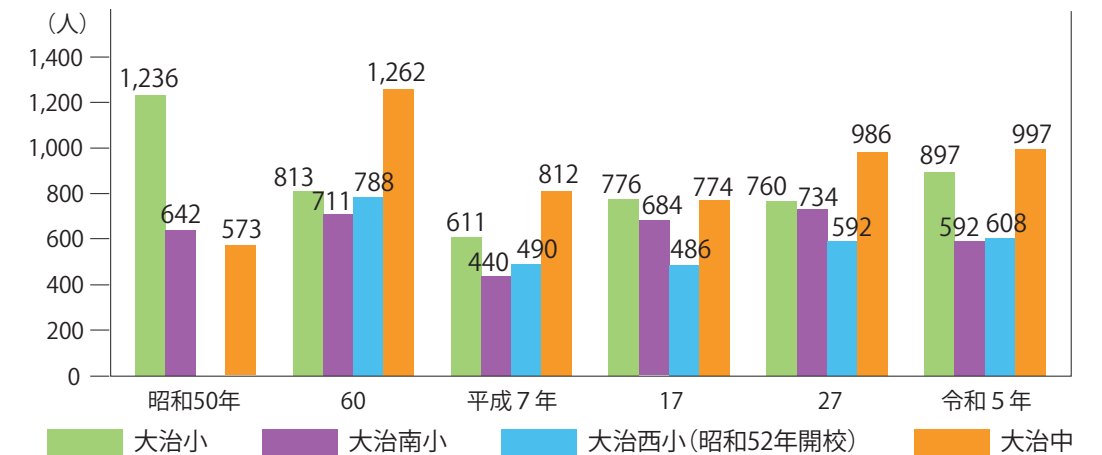
	学校法人山崎学園 大治幼稚園	学校法人山崎学園 大治第二幼稚園	学校法人 とみだヶ丘学園 大治いずみ幼稚園	学校法人織田学園 ずいよう幼稚園
開園	昭和30年	昭和45年	昭和44年	昭和45年
所在地	西條	西條	砂子	北間島
昭和55年 園児数	131人	149人	221人	302人
令和7年度 利用定員	—	—	127人	210人

※平成13年に大治第二幼稚園は大治幼稚園と統合し、閉園。平成27年に幼保連携型認定こども園となる。

第3節 まちの小学校・中学校

増え続ける児童・生徒数

図 6-1 児童生徒数の移り変わり



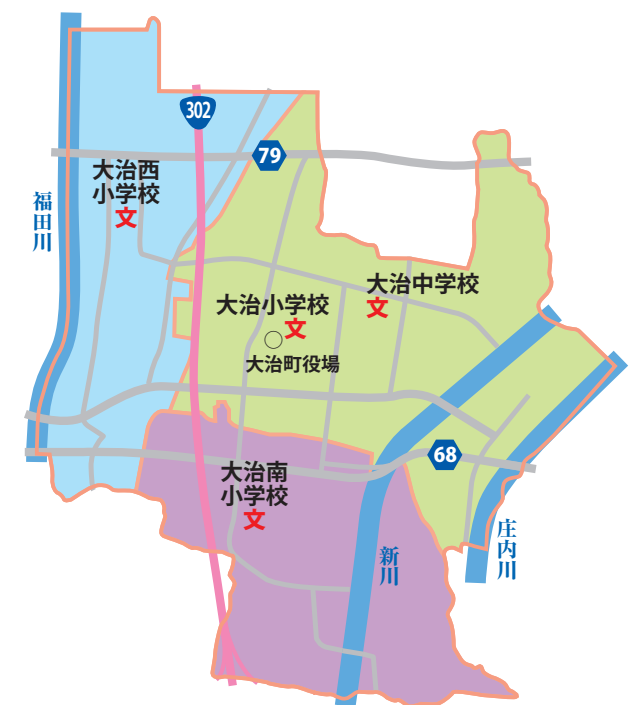
町には、大治小学校と大治南小学校、大治西小学校、大治中学校があります。

最初に開校した学校は、大治小学校です。明治6（1873）年に町に置かれた義校の流れをくむ、歴史のある学校です。昭和22（1947）年には、大治小学校の名称となりました。

人口の増加とともに児童数も増え、昭和48（1973）年に大治第二小学校（現大治南小学校）が、昭和52（1977）年には大治西小学校が開校しました。

学校の開校に合わせて学区も変わり、遠方から歩いて

図 6-2 現在の小学校の通学区域



通学する児童の負担も減りました。

町で唯一の中学校である大治中学校は、六・三制の義務教育制度を受けて、昭和 22 年に開校しました。

学校でのきめ細やかな指導体制と教育環境の改善を目的として、1 学級の児童数が段階的に引き下げられてきま

した。国の制度では、昭和 55（1980）年度に 45 人から 40 人へ、続いて、段階的に 35 人へ引き下げられています。愛知県では、国よりも先に 35 人学級を採用し、行き届いた指導ができる環境を整えています。

表 6-2 35 人学級導入の状況

	小 1	小 2	小 3	小 4	小 5	小 6	中 1
国	平成 23	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	令和 7	—
愛知県	平成 16	平成 20	令和 3	令和 4	令和 5	令和 6	平成 21

教育環境の向上をめざして

平成 8（1996）年度に、全ての小中学校の耐震診断をし、順次、補強工事を行いました。

平成 21（2009）年度の中学校の耐震工事により、全ての校舎が基準を満たしました。

夏の気温が 30 度を超える真夏日や猛暑日が増加するようになり、快適に授業を受けられるよう、平成 25（2013）年度に、小中学校の全ての教室に、扇風機を設置しました。



エアコンと扇風機が設置された教室で、快適に授業（大治西小学校）

扇風機は、天井や壁面の上部など、1 教室に複数設置し、空気の流れを効果的に作るようにしました。

さらに、令和元（2019）年度には、小中学校の全ての教室にエアコンを設置しました。

また、家庭での洋式トイレの普及により、和式トイレを使い慣れない子どもが増えてきました。

そこで、平成 27（2015）年度に中学校の、平成 29（2017）～令和元年度に各小学校のトイレを洋式化し、児童生徒が安心して使えるようにしました。

表 6-3 小・中学校における主な環境整備の歩み

年度	学校名	できごと
昭和 54 年度	南小	南校舎が完成
昭和 57 年度	大治中	柔剣道場が完成
昭和 60 年度	南小	運動場拡張と校門設置
平成 4 年度	大治中	校舎と体育館の大規模改修
平成 6 年度	大治小	校舎の改修
平成 10 年度	南小	耐震補強
平成 10 ～ 11 年度	大治小	耐震補強
平成 15 年度	大治小	体育館が完成
平成 17 年度	大治中	体育館の耐震補強と大規模改修
平成 18 年度	西小	校舎の大規模改修
平成 19 年度	南小	体育館と南館の耐震補強
平成 21 年度	全校	電子黒板の導入など ICT 環境整備
平成 21 年度	大治中	校舎の増築と耐震補強
平成 22 年度	南小	校舎の増築など
平成 25 年度	全校	教室に扇風機を設置
平成 26 年度	西小	体育館天井など改修
平成 27 年度	大治中	トイレを改修
平成 29 年度	大治小	校舎の大規模改修（トイレ含む）と電灯の LED 化
平成 30 年度	南小	トイレを改修
令和 元 年度	西小	トイレを改修
令和 元 年度	全校	教室にエアコンを設置
令和 2 年度	全校	校内通信ネットワーク（Wi-Fi）の整備

自慢の学校給食

小中学校の大きな特徴の一つが、毎日の給食を各校内の給食室で作る、自校給食方式であることです。

全ての小中学校でこの方式をとるのは、令和 6（2024）年時点で、愛知県内 54 市町村のうち、わずか 8 市町村のみです。町では、給食を始めた当初から、この方式で運営してきました。

自校給食では、運動会などの学校行



大治小学校の給食室（平成 15 年）

事に合わせた時間の変更に対応しやすいなどのメリットがあります。

小学校では昭和 62(1987)年度まで、中学校では平成 14(2002)年度に完全週 5 日制が始まるまでの土曜日に、牛乳やパンと簡易的なおかずのみの「簡易給食」がありました。土曜日の授業は午前中のみですが、小学校では給食後に下校し、中学校では部活動をしていました。

また、平成 5(1993)～24(2012)年には、全校に残さい処理機を導入していました。給食で出た生ごみを投入すると、約 1 日で粉末状の有機肥料になります。この肥料を校内の花壇にまいて、生ごみの削減に取り組む活動も、自校給食ならではの活動といえるでしょう。

メニューに目を向けてみましょう。昭和 45(1970)年頃までは、脱脂粉乳が出されていました。脱脂粉乳は、大きな食缶に入れてクラスに届けられました。その後、牛乳に変わりました。

主食は、毎日食パンでしたが、ぱさぱさしており、食べづらかったようです。昭和 40 年代終わりごろから、ご飯が登場しました。しかし、保温ケー



中学校の残さい処理機（平成 5 年）



人気メニューの一つ、きなこ揚げパン

スに入れられるようになるのは、数年たってからでした。平成 3(1991)年には、パンを週 2 回、米飯を週 3 回、麺類を月 1 回出していました。

セレクト給食も楽しみの一つです。セレクト給食とは、3 種類のうち好きな一つを事前を選んで希望を出すと、それが給食に出されるものです。昭和 59(1984)年に大治南小学校で始まり、今では全ての学校で行われています。

ある日は、セレクトデザートとして、チョコクレープ、三色団子、ピーチゼリーから、一つを選びました。また、おかずを選べる日もあります。自分の



人気があったメニューを発表

好きな物が給食に出ることや、自分だけの給食という特別感もあり、子ども

昭和 50 年代の食パンは固くてスカスカだったから、牛乳に浸して食べたりしていたなあ。ジャムやピーナッツクリームも楽しみだったよ。



たちの笑顔が広がるイベントの一つとなっています。

昭和 60 年代になると、揚げパンが出ました。大きめのコッペパンを油で揚げ、砂糖がまぶしてありました。甘くてとても人気がありました。



ゆとりある学校週 5 日制

子どもたちが個性を生かしながら、豊かな自己実現を図れるようにと、文部省（現文部科学省）の方針により、学校の土曜日の休業が進められてきました。

平成 4(1992)年 9 月に月 1 回の休業が始まり、平成 14 年 4 月から、完全週 5 日制となりました。

児童生徒の休みが増えたものの、保

表 6-4 週 5 日制への移行の流れ

年月	内 容
平成 4 年 9 月	月 1 回（第 2 土曜）休み
平成 7 年 4 月	月 2 回（第 2・4 土曜）休み
平成 14 年 4 月	完全週 5 日制

子どもの健全な教育に向けた学習指導要領

学習指導要領は、社会情勢に合わせて、適した教育が行えるように、改訂されます。

昭和 52 年度には、ゆとりのある充実した学校生活の実現を、平成 10(1998)年度以降は、生きる力の育成を重点にして、改訂されてきました。

中学校では、昭和 57(1982)年度

護者が土曜日に働いている家庭も少なくありませんでした。完全 5 日制を導入する前の平成 14 年 2 月に、保護者にアンケートをしたところ、「学力の低下」や「土日の過ごし方」が、心配事の上に挙げられました。

そこで、学校の土曜日休業の開始に合わせて、児童クラブも土曜日を開設し、公民館やスポーツセンターでは、子ども向けの講座を新設しました。また、公民館のロビーの一角にキッズルームや学習スペースを設けて、子どもたちが安心して過ごせる場をつくってきました。

に柔剣道場を新築し、必修化される前から男子は、保健体育の授業に柔道や剣道を取り入れており、生徒の心身の発達を図ってきました。

その後、平成 24 年度に武道とダンスが必修化され、武道では男子は柔道を、女子は剣道に取り組むこととなりました。また、男女共に、ダンスの授



礼に始まり礼に終わる柔道の授業
(平成 10 年頃)

業も始まりました。

平成 23 (2011) 年度には、小学 5・6 年で、歌やゲームなどを取り入れた週 1 コマの外国語活動が始まりました。

町では、英語を教える ALT (外国語指導助手) を、平成 9 (1997) 年度から中学校に 1 人配置しました。

その後、学習指導要領の改訂に先駆け、平成 21 年度には 3 小学校を担当する 1 人を配置しました。

平成 30 (2018) 年度からは、各学校に 1 人ずつ配置し、4 人の ALT がいます。

平成 26 (2014) 年度からは、夏休みや冬休みに「イングリッシュキャンプ」を開催しました。これは、できる



多文化とふれあう 楽しい外国語活動

限り英語を使って参加する催しです。参加の小中学生は、教員や ALT たちと英語でふれあいながら、自分の思いを伝える楽しさを感じました。また、高校生ボランティアが流暢に英語を話してイベントを盛り上げる姿に刺激を受け、積極的に英語を話そうとする様子が見られました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年度で休止となりました。

令和 2 (2020) 年度には、小学 5・6 年は週 2 コマの外国語が、小学 3・4 年は週 1 コマの外国語活動が始まりました。

なお、小学 1・2 年は必須化の対象ではありませんが、年に数コマの外国語活動を行い、必須となる学年に向けての準備期間としています。

平成 30 年度には小学校で、翌年度には中学校で、数値などによる評価を行わない「特別の教科」としての道徳が始まりました。道徳心を養い、健全な成長を促す目的のため、考え、議論する授業を行っています。



外国の遊びや文化に触れるイングリッシュキャンプ

一人一人に寄り添う教育活動

時代の変化により、子どもたちが抱える不安や悩みなども、多様化してきています。それらに柔軟に対応できるよう、相談窓口を設けてきました。

平成 24 年に、さまざまな事情で毎日の登校を困難に感じる児童生徒をサポートする、適応指導教室「トラスティ」を設置しました。安心できる居場所を提供しながら、個人に合わせたペースで、集団生活や学習に取り組んでいます。

それまでは、町内にはこのような教室がなく、希望する場合は町外の教室に通う例もありました。トラスティが開設されてからは、より身近な場所で、

それまでの小中学校とも強く連携のとれた環境で過ごすことができるようになりました。

平成 29 年度からは、ライフコンダクター(スクールソーシャルワーカー)を配置し、小学生の学校生活での悩みや困り事の相談と支援を始めました。

さらに、令和 2 年度には、子ども応援本部を設置しました。ライフコンダクターやスクールカウンセラーに加え、多方面の専門家との連携をより強化した相談窓口です。児童生徒や保護者の学校生活への不安、成長や発達への心配事などの相談を受けています。

安全を見守る取り組み

小学校へは、近所に住む児童によるグループ「通学団」ごとに登校しています。各団は、先頭と最後尾に団長と副団長を配した列を作ります。昭和 50 (1975) 年以前から、通学団での集団登校が取り入れられていました。



安全な通学のために (昭和 40 年代後半頃)

また、交通量の多い交差点などには、そこを通学路とする児童の保護者が輪番で立つ旗当番や、交通指導員が見守っています。

平成 17 (2005) 年度からは、大治町年輪ボランティアの会 (通称 ONB



交通指導員が見守るなかで (平成 9 年頃)



ONBの会の見守り活動（令和3年）

の会）による活動も始まりました。

ONBの会は、60歳を迎えた同年の集まりである、「年輪のつどい」の有志が始めたもので、その後、輪が広がっています。

児童の登下校時に、そろいのオレンジの帽子とベストを着て安全を見守る

新型コロナウイルス感染症対策

令和元年12月に発生した新型コロナウイルス感染症は、学校生活にも大きな影響を及ぼしました。

令和2年2月28日（金）に、翌登校日である3月2日（月）からの休校が決まりました。

4月になっても休校は続き、入学式も短時間で済ませ、自宅で家庭学習プ



桜の木の下での入学式（大治西小学校）

姿は、子どもたちにもなじみの存在となっています。

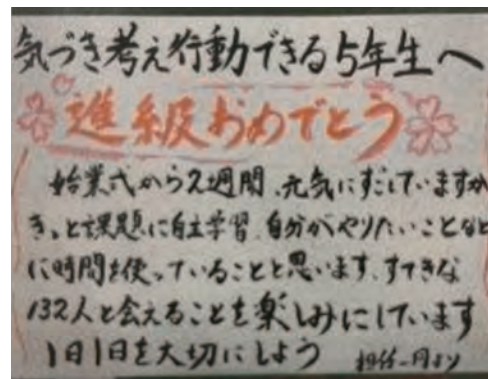
その活動が評価され、平成21年度には文部科学大臣より学校安全ボランティア活動奨励賞が授与され、その後も数々の表彰や感謝状を受けています。令和6（2024）年度には、愛知県の全てのボランティア活動の中で最も上位の功労者表彰を知事より受賞しており、永年の功労がたたえられています。

ONBの会のほか、島井青壮年会など有志による活動もあり、地域ぐるみで児童を見守っています。

リントに取り組む日々が続きました。

5月21日からの分散登校を経て、ようやく6月1日に全員そろっての通常の登校となりました。2か月ぶりの級友との対面に、笑顔があふれていました。

その後も、完全に元通りの生活とはいきませんでした。修学旅行を日帰



休校中、HPで教員からのメッセージ

りとするなど、児童生徒の安全を確保しつつ、学校生活や行事を送れるように苦慮した年となりました。



東京から、伊勢志摩へ変更された、中学校の修学旅行（令和3年）

教育のデジタル化に向けた ICT 環境整備

平成4年度に大治中学校にコンピューター室を設け、小学校にも整備を進めました。また、平成21年度より、全教員へのノートパソコンの配布や電子黒板の導入、校内LANの整備を進めてきました。

令和元年度に、文部科学省は、公立小中学校の全ての児童生徒に、1人1台の端末を整備する方針を出しました。

新型コロナウイルス感染症の影響で、ICT環境整備の必要性が高まり、

町でのタブレット導入も積極的に進めました。

令和2年度には、全校に通信ネットワークの整備を行い、全児童生徒へのタブレット端末の配布を完了しました。

全ての児童生徒へのタブレットの配布は、海部地域で最も早く完了しました。特に大治小学校では、ICTを効果的に活用して、「自他を認め、生き生きと学び続ける児童の育成」に取り組みました。教職員や児童が、ICTを用いて考えを膨らませ、認め合い、研究成果を発表しました。



コンピューター室での授業に興味津々（平成14年）



電子黒板での習字の授業（平成22年）

タブレット端末は、授業での意見交換や「心の天気」アプリで日々の心情の記録、校庭での植物観察時のカメラ機能など、さまざまな場面で活用しています。各教室のモニターも併せて活用し、より充実した学びとなるよう、工夫しています。



タブレットとモニターを活用しての授業

工夫を凝らした水泳の授業

小学校には、25m プールと、水深が浅い低学年用プールの2つがあります。

まだ身長も低く、自信を持って泳げないうちは、低学年用プールで水慣れをしながら、泳力をつけることができます。また、コースも少ないため、目が届きやすく、児童も教員も、安心して水泳の授業に取り組めます。水に慣れ、身長も伸びてくると、25m プールに移ります。

6～9月頃まで水泳の授業があり、子どもたちには夏の暑さを忘れられる

楽しい時間でもありました。3年時には、全員が25mを泳ぐことができるよう、放課後の練習にも取り組んでいました。



楽しく水慣れ（大治西小学校、平成23年）



身長や泳力に合わせて、2つのプールで水泳授業（大治南小学校、昭和57年）



希望者のみの練習会（大治小学校、平成26年）

また、着衣水泳の講習など、万一の事故に備えた取り組みも行いました。

平成12(2000)年から翌年にかけて、プールに併設のシャワーの温水化工事をしました。それまでのシャワーでは、冷たく感じるときもありましたが、温水シャワーは適温となり、しっかりと浴びることができるようになりました。

令和4(2022)年度からは、小学校の水泳の授業を、校内のプールではなく、町内にある民間のスイミングスクールで行うことにしました。民間プールを活用した水泳の授業は、海部地域では初の導入です。

屋内プールのため、天候により予定を変更することなく、計画的に授業が

できるようになりました。

また、専門のインストラクターが指導に加わることで、より高い安全性と児童の泳力の向上が期待されています。子どもたちからも、きれいなプールでの授業で「泳げるようになってきた」「もう少しやりたい」などの声があがっています。



教員とインストラクターの合同で水泳指導

地域の人々とつくる、学びの環境

児童の本への親しみと豊かな心を育てるために、各小学校に図書に関係するボランティア団体があります。

大治南小学校には、平成7(1995)年に、「よみがたりサークルたんぼぼ」が発足しました。PTA図書委員の提案から生まれた、読み聞かせの団体です。

週1回、朝の読書の時間などに、学年ごとに読み聞かせを行います。クラスごとに本を選び、時にはわらべうたや人形劇なども組み合わせて、物語を表現します。どの学年の子どもたちも集中し、目を輝かせて真剣に聞く様子が見られます。

たんぼぼの会員は、本を読むだけでなく、会員自身が子どもたちと共に

物語の世界を楽しむことを重視しています。

大治小学校では、平成14年に発足した「ハーモニー」が、図書の補修や季節ごとの壁面飾りを通じて、児童が楽しく本にふれあえるようにしていま



たんぼぼの読み聞かせにみんな夢中（平成19年）

す。

大治西小学校では、平成 16（2004）年度に発足した「まつぼっくり」が、各クラスで読み聞かせを行いました。新型コロナウイルス感染症による休校まで、活動していました。

学校の環境の面では、平成 23 年度に大治南小学校に、平成 25 年度に大治中学校に、「おやじの会」ができました。遊具や校舎のペンキ塗り、教室の床の張替えや清掃活動などに、大きな力となっています。

平成 26 年度より、学校支援地域本部の活動が始まりました。

小中学校がボランティアを依頼したときは、コーディネーターを通じて、事前に登録された地域ボランティア（はるボラフレンズ）に連絡します。



おやじの会による、いすの整備（平成 25 年）
と花壇の整備（平成 26 年）



校外学習を見守る、はるボラフレンズ
（令和元年）

依頼の内容や日時が合うボランティアが手を挙げ、活動に参加する仕組みです。ボランティアは、「自らできることを、できるときに、できるところから」を合言葉に、活動しています。令和 7（2025）年 3 月時点で、162 人が登録しています。

学校からは、校外学習の移動中の付き添い、カッターナイフや彫刻刀を使うときの見守り、図書室の本の整備などの依頼があります。

「先生 1 人だけだと、なかなか私のところに来てくれないので、ボランティアさんがいてくれてよかった」「ボランティアさんが教えてくれて安心したし、あまり失敗せずにできてうれしかった」という児童の声も寄せられています。

ボランティアからも、「子どもたちに接すると元気がもらえ、生きがいを感じる」「子どもたちがとても興味を持って取り組む姿を見られたり、いろいろな活動ができたことが、うれしい」といった感想が寄せられており、地域と学校そして児童をつなぐきっかけともなっています。

平成 30 年度からは、町の農業振興会と JA の協力で、農業体験教育が始まりました。大治小学校に隣接する畑で、手入れや収穫方法などを教わり、季節に合わせた野菜を育てます。大治小学校での活動は令和 3（2021）年度まで続き、同年からは、大治南小学校で活動が始まりました。3 年生の児童が、季節に合わせてモロヘイヤ、枝豆、ピーマン、赤シソ、小松菜などを育て、農業の楽しさや苦労を学んでいます。収穫した作物は家庭で味わうほか、給

食の食材として全児童に振る舞われています。



収穫が楽しみな、きゅうりとトマト
（令和 6 年）

大治小学校

明治 40（1907）年に大治尋常小学校として開校した、町で最も歴史のある学校です。

昭和 48 年に大治第二小学校（現大治南小学校）が開校するまでは、町内

の全ての児童が通学していました。

めざす児童像は、「よく学び よく考える子」「思いやりのある子」「がんばりぬく子」です。



大治小学校航空写真（昭和 61 年）



ぬくもりがある木造校舎（昭和30年代）



町の木にもなった大きな「せんだん」の木（平成9年）

●遊具コーナーと体育館

校庭の東側には、子どもたち自慢の広い遊具コーナーがありました。さまざまな遊具があり、遊びを通じて楽しみながら体力づくりができます。当時は、校庭を仕切るフェンスなどもなく、下校後や休日には、近隣の幼児や小学生など、大勢の子どもが自由に集い、遊ぶ憩いの場となっていました。

また、遊具コーナーの北側には、大きな藤棚がありました。この下は、集団下校の際に通学団ごとに並ぶ場所でした。花の季節には、ほのかな甘い香りを楽しみ、花が終わると大きな日除



元気いっぱい！遊具コーナー（平成10年代前半）



思い出の場所 藤棚（平成9年）

けになってくれた、子どもたちの思い出の場所の一つです。

一方で、校内には体育館がありませんでした。隣接する市民体育館で運動や行事をしていましたが、雨天時の移動などに難点がありました。

そのため、敷地内に体育館の建設が熱望されており、平成15（2003）年

度に遊具コーナーを取り壊し、体育館を新築しました。自慢の遊具コーナーと藤棚はなくなりましたが、この年の6年生は、真新しい体育館で、華やかに巣立ちの卒業式を行うことができました。また、校舎と渡り廊下でつながったため、雨天時の移動にも傘がいらず、利用しやすくなりました。



待望の体育館（平成16年）

●はしリンピック

特色のある取り組みの一つに、長距離をみんなで走る「はしリンピック」があります。令和2年度に、新型コロナウイルス感染症の影響で休止されるまで、行われていました。児童の体力づくりと、自分の目標を達成する心を養うことを目的にしています。1・2

休みの日には、学校の隣にあった駄菓子屋でお菓子を買って、校庭の遊具で遊んだよ。



長距離走は、南小や西小でもやっていたよ。南小は、保健センターなど大きな建物ができるまでは、校外を走っていたよ。



大治南小学校

大治小学校の児童数の増加により、昭和48年に大治第二小学校として開校しました。めざす児童像は、「まじ

年生は校庭を、3年生からは、学校の周囲を走りました。

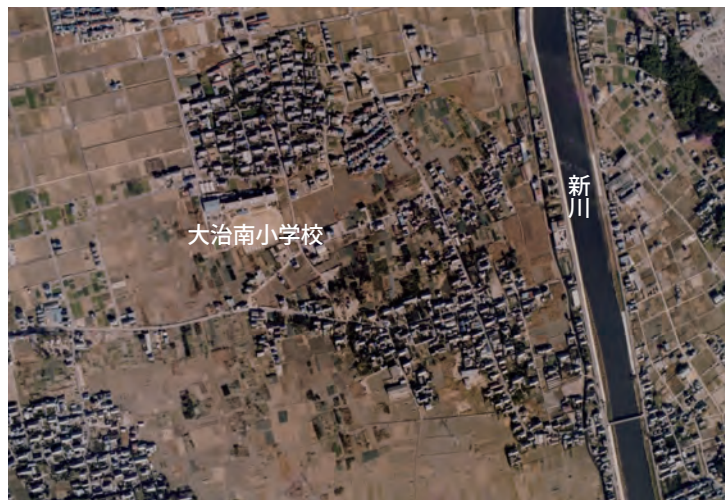
毎年1月の開催に向け、12月から「わくわくランニング」で練習を重ねます。本番では、校外の公道がコースとなるため、安全確保のため、保護者も応援を兼ねた見守りをしていました。児童は、教員や保護者の応援を背に、それぞれが目標とする順位や完走を目指して汗を流しました。最後まで走りきったこと、順位は下がったけれどタイムが上がったことを喜ぶなど、走り終えたあとの子どもたちの顔には、さわやかな笑顔が見られました。



はしリンピックで学区を疾走



開校 5 周年（昭和 52 年）



大治南小学校の学校区（昭和 52 年）

るのを機に、校名を大治南小学校に変えました。また、「第二」と「南」はどちらも読みが 3 文字であることから、校歌も「第二」を「南」に置き換えて対応しました。

●はだしの生活

開校 10 周年となる昭和 57 年 5 月から、「はだしの生活」を始めました。「日常生活の中で、丈夫な体づくりを目ざす」取り組みです。登校すると、子どもたちは靴を脱ぎ、学校生活を全てはだしで送りました。校庭での運動も、教室での授

業や給食もはだしです。

毎年、足裏の変化を観察し、記録します。当初は、足の痛みを訴える子もいましたが、数年経つと、はだしの気持ちよさを感じる子が多くなり、「か



開校 10 周年記念（昭和 57 年）



朝の「めざめタイム」でのなわとびも、はだしで（昭和 60 年）

ぜをひきにくくなった」といった声とともに、雪の日にもはだしで駆け回る姿も見られるようになりました。「はだしの生活」は、平成初めまで続けられました。

●特色ある給食

大治南小学校は、特に給食への取り組みが盛んです。学校給食優良校として、昭和 58（1983）年には県より表彰を、昭和 60（1985）年には文部大臣賞を受賞しました。自校給食の調理室の充実や食事マナーの指導など、楽しいと感じる給食の時間づくりに取り組んできました。

その一つが、誕生日給食です。誕生日を迎える児童が、校長先生と共にランチルームで給食を食べます。普段は少し緊張してしまう校長先生とも、おいしい給食を食べながら、話が弾みます。また、デザートにショートケーキが出てくるのも、大きな楽しみの一つでした。

そのほか、学年合同給食や通学団給食、たてわり給食など、さまざまな方式を取り入れていました。通常のクラスでの給食とは異なる雰囲気では話をしながら、給食の時間を過ごしていました。

文部大臣賞の受賞後には、県内外から視察を受けるほどの注目を集めていました。

平成 10 年代からは、6 年生と校長先生との会食会が始まりました。卒業を間近に控えた 3 学期に、数人のグ



ピクニック気分で野外給食（昭和 60 年頃）



校長先生とうれしい誕生日給食（平成 4 年頃）

ループごとに、6年生全員が校長室と一緒に給食を食べます。普段は入れない校長室で、緊張しながらも、小学校の思い出や将来の夢など、会話をしながら給食を楽しみます。

●読書活動

昭和60年度からは、豊かな心を育むために、読書活動にも力を入れてきました。

毎日の読書タイムで読書の楽しみを知るとともに、習慣化しました。

また、社会と物語以外の本がある「図書室」、物語だけを集めた「にこにこルーム」など、複数の図書室がありました。部屋を分けることにより、蔵書数を増やししながらも、目的の本を探し

大治西小学校

大治小学校の児童の増加を受けて、3校目の小学校として、昭和52年に開校しました。めざす児童像は、「心のやさしい子」「ひとり学びのできる子」「体のじょうぶな子」です。



校庭で、第1回の入学式（昭和52年）



各県の資料や、昔の道具の実物などで、社会科の調べ学習ができる「しらべ室」

やすい環境としました。

本に親しむだけでなく、自らが持った疑問を本を活用して調べ、発表するなど、新しい知識を得る喜びの笑顔も見られました。

これらの取り組みにより、平成2（1990）年度には、東海三県学校図書館総合優秀賞を受賞しました。



開校10周年（昭和61年）



開校10周年記念 校訓碑を設置（昭和61年）



校舎の増築前で、体育館との間に長い渡り廊下がありました（昭和53年）

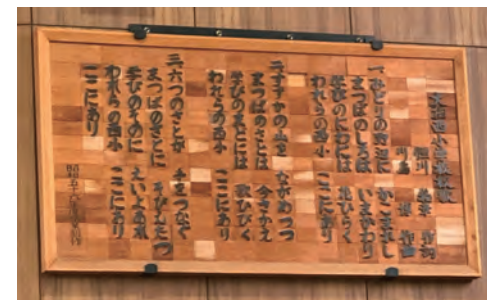
●卒業作品

開校してからの数年間は、卒業制作として、児童の作品が学校に寄贈されました。

その一つが、体育館の前方の壁に飾られている校歌の歌詞です。歌詞の一字を児童に割り当て、彫刻刀で板から彫り出します。全員が彫り終わると、



完成した校歌板を囲む卒業生



体育館に飾られる校歌板

歌詞の順に組み合わせました。

そのほか、校章を児童の数のパーツに分け、一人ずつ彫ったものを組み上げた年もありました。

これらの卒業生の作品は、今も校内に飾られています。

●福祉交流と実践教室

昭和63（1988）年度に、学区内に、老人福祉センター・在宅老人デイサービスセンターができたことから、福祉



ちびっこサンタからプレゼント（平成3年）



ほんの少しの段差に苦戦 福祉実践教室

交流会を始めました。

毎年、1学年が老人福祉センターを訪れ、センターを利用している地域のお年寄りとの交流を深めます。平成3年度は、6年生の1クラスが参加し、ゲームや歌などによる、クリスマス会で楽しいひとときを過ごしました。

平成7年度からは、それまでの、地域の高齢者とのふれあい活動から方向

性を変え、児童自身が福祉を理解し体験する、福祉実践教室を始めました。目隠しをしておの歩行とそのガイド役をしたり、車いすを体験したりすることを通じて、自分にできることを考えるきっかけとなっています。なお、この福祉実践教室は、令和6年度時点では全ての小中学校が取り入れています。

●西っ子夏祭り・春祭り

児童がたいへん楽しみにしている催しの一つに、平成13（2001）年度から始まった「西っ子夏祭り」があります。

3～6年生までは、各自で考えたゲームができる「店」を、クラスごとに運営します。事前に、店の飾りつけや役割分担をし、どうしたら楽しんでもら



学年を超えた交流も楽しい、西っ子春祭り（令和4年）

大治小から西小に移った時は、新しくピカピカで、4階建ての校舎が誇らしかった。新品の廊下がつるつるで、よく滑って転んだ。



第二小学校みたいに、第三小学校という名前になると思っていたら、「西小」に名前が決まってびっくりした。



小学生全員に、「大治西小学校竣工記念」と書いた30cm定規が配られたよ。



えるか工夫を凝らします。当日は、お客さん役の児童をもてなし、ほかの店に交代で遊びに行きます。また、1年生には高学年がペアを組んで、一緒にお店を巡ります。1年生に行きたい店を聞き、ゲームのルールを理解しやす

大治中学校

大治中学校は、昭和22年に開校した、町で唯一の中学校です。

校訓の、自主（Active）、責任（RESponsible）、礼儀（POLite）からとって、「アレスポ（ARESPO）精神」のもとに、生徒たちは学校生活に励んでいます。

●頭髪の規則

昭和50年代には、頭髪に関する規則もありました。



昭和26年頃



開校70周年（平成29年）

く説明するなど、思いやりにあふれたお祭りです。

令和4年度からは、より快適な気候のなか、楽しく開催できるようにと、開催の時期を7月から5月に変え、名称も「西っ子春祭り」としました。

昭和50年代半ばまでは、男子の野球部員とサッカー部員のみは丸刈りで、女子は肩より長い髪を結ぶ決まりでした。

昭和56（1981）年度からは、男子は全員丸刈りで、女子は肩につかない長さで切りそろえることと定まりました。

しばらくこの決まりでしたが、平成2年度に、女子の頭髪への規則が緩和され、結ぶことを条件に、肩より長く



まだ南校舎はありません（昭和53年）



校庭での全校集会（令和2年）

髪を伸ばすこともできるようになりました。

さらに翌年度には、男子の丸刈りの規則が見直され、長髪が可能となりました。

男子の髪は、保護者からも「中学生らしい丸刈りのままで」「スポーツ刈り程度ならいいのでは」「中学生らしい髪型ならば、丸刈りでなくてもいいと思う」など、さまざまな意見がありました。このことも踏まえつつ、生徒会が中心となり、学校と話し合いを重ね、髪規則の改正に結びつきました。

●修学旅行

修学旅行は、関東を目的地として行ってきました。昭和56年までは、東京までの往復には、東海三県の中学校が使用する修学旅行専用列車「こまどり」を利用していました。車内は向かい合うボックス席が並び、走行中に窓を開けて外の景色や風を楽しみました。東京に着くと、バスに乗り換え、皇居や国会議事堂などを見学しました。

昭和57年からは、新幹線の利用を始めました。それまでの特別列車ではなく、通常ダイヤの新幹線を利用することから、運動場に新幹線の実物大の線を引き、短い停車時間内に全員が乗降できるように練習もしました。

また、宿泊先が旅館ではなくビジネスホテルを利用するようになると、事前にテーブルマナーの講習会や、ホテルのカードキーの使い方を説明し、生

徒が安心して旅行を楽しめるように、準備を重ねました。

●あすか社会学習

昭和61(1986)年度より、1年生を対象に「あすか社会学習」を始めました。活動の大部分を、生徒だけの班行動で行うことが大きな特徴です。飛鳥時代に都があった奈良県飛鳥地方を、約4時間かけてレンタサイクルで巡り、遺構や遺物の見学をします。

あすか社会学習には、まず生活の見直し運動から始めました。生活の点検活動や班リーダー会などで日常生活を磨いた上で、飛鳥の歴史や文化など、多くを学び、当日を迎えました。

あすか社会学習は平成4年度まで開催し、翌年からは、伊賀上野市でのキャンプに、行先と内容を変更しました。

令和6年度は、キャリア教育の一環として、中部大学の見学などにより、将来を考える機会となるようにしています。



あすか社会学習 自転車で史跡巡り
(昭和62年)

●職場体験

平成2年度からは、進路学習として職場見学を始めました。働くことの意義を知り、自分の進路を見据えるため

に1年生で取り組みます。

現在は、小学校の町探検や、中学校の職場体験など、地域の事業所にさまざまに協力をいただいています。しかし、このころはまだ、学校も事業所も初の試みでしたので、まずは町内に限らず、海部郡内や名古屋市の、保護者が在籍する職場を中心に協力を依頼しました。初年度は、JR名古屋車両所や株式会社電通など54か所を班単位で見学しました。

まだ携帯電話も普及していない時代であり、定時連絡だけでなく、道に迷ったり、さまざまな不安を感じた生徒からの電話が、次々と学校に入りました。初年度は、学校も生徒も予想外のことが多くありましたが、生徒だけで公共交通機関を使って事業所を訪問する経験は、大きな学びとなりました。

この事業は、3日間の職場体験という形で、今に引き継がれています。

●利尻島の人たちとの交流

平成27年度の町制施行40周年記念行事の一つとして、中学生利尻島交流派遣事業を行いました。

利尻島は、北海道北部にある離島で、利尻昆布をはじめとする漁業が盛んです。

交流は8月18～21日の4日間で、20人の生徒が参加しました。

北海道の豊かな自然の中、昆布漁を学び、昆布出汁をとって調理し、うま



日本の最北端に近い島 利尻島

参加者の感想の一部

習っただし巻き卵を帰ってから作ったら、おいしいと言われ、うれしかったです。

自然はものすごく大切だと実感した。大治町には自慢できる自然があまりありません。それは人間が壊してしまったからかもしれない。今ある自然を守っていきたいといけなく強く思いました。

鵜泊中の生徒の優しさや、おもてなしの心を学びました。

大人になったら、今回の4日間の経験を思い出しながら、また利尻島を訪れたいです。

利尻島には豊かな資源の海と漁業という産業がありますが、大治町の場合には何があるのか、思いつきませんでした。町の未来を考え始めたことが一番の収穫です。



見慣れた昆布との違いにびっくり

味調味料出汁との違いを舌で感じました。ポン山トレッキングやサイクリングで地方独特の植物などを感じ、利尻島のおしどまり^{おしどまり}中学校との交流もしました。食事は、全員で協力して手作りしました。また、お世話になった方へのお礼をどのようにするかも自分たちで考え、多くの学びにあふれた交流となりました。

●盛んな部活動

大治中学校は、部活動がたいへん盛んです。地域の大会を勝ち抜き、東海

大会や全国大会へ駒を進める部活が多くあります。

●変わりゆく学生服

令和3年度より、それまでの詰襟学生服やセーラー服に加え、ブレザータイプの制服が選択できるようになりました。

それまでの制服は、スカートは冬季に体がとても冷えること、詰襟学生服は気温の高い日には熱がこもるなど、特に気温への調節が難しいという問題がありました。

そこで、上着の着脱で体温の調整が容易な、ブレザータイプの制服を導入しました。

導入に先立って、生徒からデザイン案を募り、着用する立場の意見も取り入れて、検討を重ねてきました。

採用した制服は、冬季の寒さ対策や自転車通学にも配慮して、スカートのほか、キュロットスカートやスラック



新制服を着用した、初年度の1学生

スが選択できるようになりました。夏季の上衣は、速乾性と通気性の良い、半そでポロシャツです。ネクタイとリボンはおプションとし、気温や好みに合わせて着脱や、どちらを着用するかを本人が判断できるようにしました。本人や家庭の希望により、それまで



各自で選んだ制服で過ごす学校生活

の詰襟学生服・セーラー服タイプと、ブレザータイプのどちらも着用ができます。

ブレザータイプの制服は、近年では増えつつありますが、海部地域の市町村では、最も早い導入でした。

Column 学校で使われる言葉

☆「^{ほうか}放課」

「放課」は、授業と授業の間の、自由時間・休憩時間のことです。

2時間目と3時間目の間の少し長い時間は「大放課」や「〇分放課」、給食と5時間目の間の時間は「昼放課」と呼びます。

愛知県の多くの学校で、「放課」の言葉が使われています。

☆「^{だっかじょう}脱靴場」(大治小学校と大治西小学校)・「^{だつりしつ}脱履室」(大治南小学校)

登下校時に、下足と上靴を履き替える場所のことです。

一般的には、昇降口や下駄箱などと呼ぶ学校が多いかもしれません。

「脱靴場」や「脱履室」は、愛知県の北西部の一部でも使われているようですが、町と関わりが深い海部地域では、このように呼んでいる地区はほかにはありません。なぜ、大治町で使われるようになったのか、町内の学校で呼び方が異なるのかなどは、はっきりしていません。



脱靴場 (大治西小学校)

表 6-5 全国大会上位入賞部活動一覧

年 度	内 容
平成 11 年度	全国中学校バスケットボール大会 女子 3 位
平成 13 年度	全国中学校バスケットボール大会 女子準優勝
平成 24 年度	創造アイデアロボットコンテスト全国大会 3 位
平成 27 年度	創造アイデアロボットコンテスト全国大会 応用部門ベスト 8 全国中学校産業教育教材振興協会長賞
平成 28 年度	創造アイデアロボットコンテスト全国大会 応用部門ベスト 8 全国中学校産業教育教材振興協会長賞
平成 29 年度	ロボカップジュニアジャパンオープン 2018 和歌山 ワールドリーグ オンステージ 特別賞
平成 31 / 令和元年度	ロボカップジュニアジャパンオープン 2019 和歌山 ワールドリーグ オンステージ 1 位 ロボカップジュニア世界スーパーチームオンステージ プレリミナリーリーグ 1 位、ベストハードウェア賞
令和 2 年度	ロボカップジュニア日本大会 2021 オンライン レスキュー出場 オンステージ 2 位

第4節 充実した日々のための学び

生涯学習を支える施設

●大治町研修館

研修館は、当初は大治村役場として建てられました。建てられた年は明らかではありませんが、使われていた瓦に「大正三年」と刻まれているため、同年もしくは翌年には建てられたとみてよいでしょう。

昭和42（1967）年に役場が移転した後、趣味やサークル活動で利用できる貸館施設とするため、室内を調理室や会議室などに改修し、名称も「研修館」と改めました。

昭和55（1980）年に公民館が開館すると、研修館の利用者は、減少の一途をたどりました。研修館で活動していた団体のほとんどが、公民館に活動の拠点を移したためです。利用者が減ってしまった研修館ですが、調理室があることは、大きな魅力でした。そこで、平成5（1993）年に、2回目の大規模な改修をしました。

調理室を利用しやすいよう土間から

清潔なクロスシート敷としたほか、調理台を新調し、講師用の調理台の天井に鏡を付けて手元が見られるようにしました。また、パン作りもできるように、新たに発酵器を備えました。

会議室やトイレも全面改修したほか、敷地内に駐車場と自転車置場を新設し、利用しやすくなりました。これにより、公民館の料理講座も開催されるようになりました。

このように、調理ができる施設として多くの町民に利用された研修館ですが、老朽化が大きな課題となっていました。



改修前の調理室（平成4年頃）



リニューアルした調理室



研修館跡地の駐車場

古い建物であり、改修をしても耐震基準に満たないことが判明したため、平成25（2013）年9月に閉館しました。

閉館後に研修館を解体し、跡地は公民館の利用者の駐車場としました。

●大治町立公民館

文化活動の拠点となるよう、昭和55年11月に、役場の南隣に鉄筋コンクリート4階建ての公民館が開館しました。

体育館や会議室、図書室などがあり、町民が幅広く活動できる施設です。16ミリ映写機や音響設備など、当時の最新の機器をそろえていました。

3階の講堂・体育室は、それまで町民体育館しか活動の場所がなかった卓球やバドミントン、バレーボールなどのほか、民踊やダンスなどの文化系クラブも連日利用しました。



完成した大治町立公民館（昭和55年）



開館当初のトレーニング室



講義・会議室で活動する利用者

2階は、会議室や視聴覚室、和室などがあり、講座や会議に適しています。サークル活動や子ども会、婦人会などの活動の場として、利用されました。

また、町民向けにいろいろな講座を開催し、たいへん人気があります。

このように公民館は、文化や運動の活動拠点として広く町民に親しまれるようになりました。

平成5年、1階の駐車場に、大治中学校美術部の生徒が壁画を描きました。



未来への夢がつまった明るい壁画（平成5年）

北面に「自然と人工が調和した未来の夢」、西面に「現在の理想の環境」が色彩豊かに描かれ、駐車場が明るい雰囲気のある場所に生まれ変わりました。

●大治町立公民館 図書室

開館当初の図書室は閲覧のみで、午前9時から午後8時まで開室していました。

昭和61（1986）年より、本の貸し出しを開始し、午後5時閉室へと変更しました。これにより、自宅でゆっくり読書ができるようになりました。

平成26（2014）年より、自宅のパソコンなどから本の検索や予約ができるようになりました。

また、愛知県内図書館のネットワークに加盟し、ほかの図書館の蔵書を町の図書室で借りられるようにしました。

令和6（2024）年からは、貸し出し冊数を1人3冊から5冊までに増やしました。



図書室で本の貸し出しを受ける利用者

●大治町立西公民館

昭和63（1988）年に、西公民館が開館しました。

西公民館には、ステージのある集会

室や会議室、図書室がありました。

集会室は、飲食ができるため、老人クラブや子ども会などに人気が高く、交流会やカラオケ大会などの行事で利用されました。

会議室は、サークルや文化活動に活用されました。

図書室は閲覧のみでしたが、ビデオの視聴ブースが設置されており、特に人気がありました。

平成23（2011）年に図書室を閉室して、翌年からは適応指導教室「トラスティ」として使用することにしました。

昭和63年に開館してから公民館の分館として、主に町西部の住民に親しまれてきた西公民館ですが、利用者が



集会室での年輪のつどい（平成8年）



多くのサークルに活用された会議室（令和4年）

減少してきたため、令和5（2023）年3月末で、閉館しました。

その後、施設を改修し、同年に「多世代交流センター」として、リニューアルオープンしました。

●歴史民俗資料室

平成11（1999）年に、大治小学校に隣接する大治会館の2階に、歴史民俗資料室がオープンしました。毎週水・金・土曜日の3日間、午後1～4時に開室しました。

町民から寄贈された、昭和初期ごろに使われていた農機具や生活用品、扇骨作りの道具などを展示しました。



町の歴史を知る 歴史民俗資料室

社会教育団体とその活動

●大治町文化協会

平成5年、教育の振興や文化の向上のために、20団体のクラブや同好会で、文化協会を立ち上げました。加盟団体は、発足後数十年の老舗クラブや、公民館講座がきっかけで結成された新しいクラブなど、さまざまです。

文化協会の発足により、それまで町と教育委員会が主催していた「さつき展」や「文化展・菊花展」を共催にし

また、郷土文化調査指導員が見学者に解説をしたり、放課後に来る児童に昔の遊びを教えたりしました。

平成27（2015）年の大治会館の閉鎖に伴い閉室しました。

表 6-6 社会教育施設の変遷

年	できごと
昭和44年	研修館 開館
昭和55年	公民館 開館
昭和61年	公民館図書室の館外貸出開始
昭和63年	西公民館 開館
平成6年	公民館のトレーニング室を会議室に改修
平成8年	スポーツセンター 開館
平成11年	歴史民俗資料室 開室
平成23年	西公民館の図書室 閉室
平成25年	研修館 閉館
平成26年	公民館図書室 予約・検索システム運用開始
平成27年	歴史民俗資料室 閉室
令和5年	西公民館 閉館 多世代交流センターに民具の展示室を設置



文化を学び、成長する喜びを表現



夏の風物詩 音楽芸能祭（平成 26 年度）



10 周年記念事業「津軽三味線演奏会」

たほか、機関紙「文化せんだん」を発行しました。

平成 8（1996）年には、文化協会を理解し親しみを感じてもらうために、シンボルマークを募集し、「文」の文字を躍動する人の姿で表した作品を採用しました。

平成 9（1997）年度からは、それまで別々に開催していた吟詠大会と音楽祭（ミュージックフェスティバル）、芸能祭を一つにまとめて「音楽芸能祭」としました。毎年 7 月の第 1 日曜日に開催し、夏の定例行事として続いています。

平成 14（2002）年度の文化展からは、テーマを決めた「特別展」を始めました。

平成 15（2003）年 2 月には、文化協会発足 10 周年を記念し、津軽三味線の演奏会を行いました。

平成 18（2006）年度には、文化協会の活性化のため、「文化やすらぎラ



文化展会場の特別展（平成 17 年）



おおはる文化塾 絵手紙（平成 26 年）



設立 20 周年記念事業（平成 25 年）

ウンジ」を開催し、会員同士の交流を深めました。その後、会員のほかに広く町民の参加も募り、「おおはる文化塾」と名称を変えました。

平成 25 年度に文化協会は発足 20 周年を迎え、10 月に記念式典を開催しました。

式典後に加盟団体の講師によるテノール独唱と日本舞踊が披露されました。

また、12 月に記念事業として、「童謡詩人金子みすゞの世界 ～ピアノに乗せて詩の朗読を～」を行いました。



盛大に開催されたころのさつき展（平成 13 年）

令和元（2019）年度で、クラブ発足から 41 年の歴史ある盆栽クラブが閉部となりました。全盛期には 65 人の会員数を誇りましたが、盆栽を愛でる人の減少や高齢化により、会員が減り続けたことが要因です。

クラブの閉部により、令和元年でさつき展と菊花展が幕を閉じることとなりました。

ほかのクラブも高齢化による会員数の減少で、存続の危機に直面しており、新たな会員の獲得など、クラブの活性化が課題となっています。

しかしながら、新しい活動も芽生えてきました。

平成 20（2008）年度に発足した「雅の会」は、つるし飾りを制作する同好会です。文化展では、「雛のつるし飾り」を特別展示しました。

表 6-7 文化協会の加盟団体数、会員数の推移

年度	加盟団体数 (団体)	会員延人数 (人)
平成 5 年	20	510
平成 15 年	27	530
平成 25 年	28	442
令和 5 年	22	303

年々、会員数を増やし、日々制作するつるし飾りは、毎年 2～3 月に町内の公共施設や名古屋駅前のホテルのロビーに展示し、とても好評です。また、節句や干支にちなんだ飾りも制作しています。

●大治町女性会

女性会は、昭和 23（1948）年に大治村婦人会として設立して以来、70 年余りの歴史があります。

昭和 50（1975）年には、会員数が約 1,900 人となり、町で一番大きな団体として、その活動はますます盛んになりました。

昭和 54（1979）年には、歌を公募し、「婦人会の歌」を作りました。

また、親子運動会やバレーボール交歓会など、盛大に行っていました。



大治町婦人会（女性会）シンボルマーク



婦人会 50 周年記念式典（平成 11 年）



サマーライブ（平成 25 年）



健康シンポジウム（平成 28 年）



書き初め大会での、大筆書きパフォーマンス（平成 29 年）

平成 7（1995）年にはシンボルマークを募集し、多数の応募がありました。大治町（oharu）の「O」と、婦人（woman）の「W」を使って、皆が仲良く集い、より発展する婦人会をイメージした作品を採用しました。

平成 11 年に、50 周年記念式典を開催しました。各クラブによる発表会など、たくさんの行事がありました。

平成 22（2010）～25 年に、「サマー



書き初め大会（平成 29 年）



女性会総会の様子（令和 6 年）

ライブ in 大治」を開催しました。各クラブの発表会と音楽ライブショーを組み合わせたイベントでした。

健康に関心が高まるなか、平成 26 年度に「健康シンポジウム」と「書き初め大会」を始めるなど、町の活性化の一翼を担っています。

なお、令和 6 年より、次世代に繋がる会になるよう、名称を「女性会」に変え、新たなスタートを切りました。

●日本ボーイスカウト愛知連盟

大治第 1 団

大治第 1 団は、「大治町にボーイスカウトを」との熱い想いが実り、昭和 55 年に、七宝第 1 団と甚目寺第 1 団から独立し、発団しました。発団時は、東條の一軒家をスカウトハウスにして、カブスカウト（小学 3～5 年生）



クルーザーでの懇親会（平成 11 年）

の 12 人でスタートしました。

青少年が自発的に活動できるように教育するために、野外活動などの体験を通して、自然を学び、友情や協調性を育てています。

平成元（1989）年に、発団 10 周年記念式典を行いました。この時は、カブスカウト（小学 3～5 年生）は 35 人、ボーイスカウト（小学 6～中学 3 年生）は 40 人所属していました。

平成 2（1990）年には、活動の功績が認められ、県から「第 21 回青少年団体表彰」を受けました。

公民館での学び

●公民館講座

公民館では、開館時から多くの講座を開催していました。同じ趣味を持つ人が集いクラブ化することを目的として、趣味や教養の講座を開き、生涯学習のサポートをしています。

昭和 56（1981）年には、水墨画や俳句などの教養講座、バレーボールや卓球などの運動講座を開きました。多くの受講者で、どの教室も活気に満ちあふれていました。



ツリークライミング

平成 8 年にビーバースカウト隊（小学 1・2 年生）が発足し、さらに活動が活発になりました。

平成 11 年の発団 20 周年記念式典は、100 人以上が参加し、クルーザーで名古屋港を一周しながら開催しました。

その後、共働き家庭の増加など子どもを取り巻く環境の変化により、年々隊員が減っています。

講座を通じて、クラブや団体が組織され、その多くが文化協会やスポーツ協会に加盟しました。



公民館講座・茶道教室（昭和 56 年）

また、青少年を対象に太鼓や吹奏楽のレクリエーション教室も行いました。

太鼓教室は、地元の神楽太鼓のメンバーによる指導のもと、行いました。この太鼓教室では、「わたよせ」や「しんぐるま神楽舞」など、伝統の打法を練習しました。平成4（1992）年度からは大治太鼓保存会が指導を行い、今の太鼓教室に引き継がれています。

吹奏楽教室は、大治中学校吹奏楽部のOBが指導し、高校生以上の吹奏楽の経験者が参加しました。平成3（1991）年度からは、中学校の吹奏楽部との合同演奏会も行い、活動の幅を広げました。このころが最も盛んな時期でしたが、その後、参加者の減少により、平成18年度に活動を終えました。



公民館太鼓教室（平成5年）



音楽祭に出演した吹奏楽教室
（昭和61年）

●母と子の健康教室

昭和57（1982）～平成8年度に開催した「母と子の健康教室」は、15年間続いた、幼児と母親を対象とした人気講座でした。

三宅講師が考案した親子で行う独創的な楽しい遊びと体操が好評で、毎年定員を超える申し込みがありました。

平成2年からは、あまりの人気のため、西公民館でも行うようになりました。



三宅講師を囲んで（昭和60年）

●公民館まつり

平成3年度から4年間、公民館まつりと西公民館まつりを開催しました。

公民館講座で作成した作品の展示や模擬店、芸能大会や映画上映会など、



第3回公民館まつり（平成5年）

大人から子どもまで楽しめる大イベントでした。

●町を探究 歴史講座

平成24（2012）年度の「文化財展」をきっかけに、町の歴史に興味を持つ人が多くなり、平成26年度から、「歴史講座」を開催しました。

町内の寺院や仏像、人物などさまざまな分野の歴史を、フィールドワークも取り入れながら学んでいます。



歴史講座（平成26年）

●成人式～二十歳のつどい

昭和55年に公民館が完成するまで、二十歳の門出を祝う成人式は、町民体育館や大治中学校の体育館で行っていました。

昭和56年からは公民館へ、平成15年からはスポーツセンターへと会場を変えました。

式典の後には、年により立食パーティーやビンゴ大会など、趣向を凝らしたイベントを行いました。

令和3（2021）年と令和4（2022）年の成人式は、新型コロナウイルス感



保護者も共に祝福（令和6年）



公民館での成人式 式典後の立食パーティー（平成4年）

染症の拡大防止のため、小学校区ごとの3部制で行いました。

令和4年に、成年の年齢が20歳から18歳に引き下げられたことで、翌年から名称を「二十歳のつどい」に変えました。

●放課後子ども教室

平成18年度より、地域の大人がボランティア指導者となり、放課後の子どもたちの居場所づくりとして、「わくわく子ども教室」を始めました。スポーツや遊びなどの体験を通じて、子どもたちが豊かでたくましい心を育てることを目的にしています。

「わくわく子ども広場」、その後「のびのび子ども広場」へと名称を変えて、継続しています。



願いを込めて 七夕祭り（平成28年）

●映画鑑賞会、親子観劇会

公民館と西公民館では、平成6（1994）年まで映画観賞会を開催していました。16ミリフィルムで邦画や洋画、アニメなどを上映し、毎回、子どもから大人まで大勢集まり盛況でした。

また、昭和63～平成13（2001）年に「親子観劇会」を開催しました。劇団による人形劇や演劇などを上演

し、親子で一緒に楽しめるイベントとして大好評でした。



優しい音色のハンドベル（平成13年）

●コンサート

平成4～9年度に「親子ふれあいコンサート」を行いました。芹洋子やデュークエイセス、さとう宗幸など、一流歌手による歌唱が生で楽しめ、毎回、会場が満員になる大盛況のイベントでした。

平成27年度の町制施行40周年記念として「ミュージックカフェ」を行ったことを機に、音楽コンサートを毎年、開催するようになりました。

その後、「クリスマスコンサート」として引き継がれています。



楽しい音楽とともに クリスマスコンサート（令和5年）

●体験学習

平成3～6年度に「親子ふれあい地曳網」を行いました。

天候により中止となる年もありましたが、地曳網ができた年は、参加者全員で網を引き、町ではできない貴重な体験ができました。

平成5年度からは、親子で一緒に楽しめる「親子自然教室」を行いました。ウィンナーづくりやカヌー体験、化石採集など、毎年行き先や内容を変えて開催すると、定員を超す大人気となり、平成11年まで続けました。

平成12（2000）年度からは、小学4～6年生が参加する「エコきつず調査隊」を行い、川や干潟の生態や水質調査、エコロジー施設の見学など、環境をテーマに楽しく学びました。

平成19（2007）年度からは、「ドキドキ探検隊」に名称を変え、川遊びや自然と歴史の探訪、お菓子づくりなどを行っています。



地曳網 静岡県新居浜にて（平成4年）



環境をテーマに エコきつず調査隊（平成17年）



東栄町で川遊び ドキドキ探検隊（平成29年）

第5節 健康寿命と生きがいづくりのスポーツ活動

スポーツ施設の充実

●平成8年開館のスポーツセンター

屋内のスポーツイベントは、町民体育館や公民館で行っていましたが、次第に、町民のスポーツへの関心が高まり、「スポーツのできる場所が、もっとほしい」との声が多くあがっていました。

その声に応え、平成8（1996）年に町制施行20周年の記念として、念願のスポーツセンターが開館しました。

1階に温水プールやサブアリーナ、トレーニング室などがあります。

2階にはメインアリーナを中心に、会議室などが充実しています。

3階にはランニングコースと、メインアリーナを見下ろす440席の観覧席があります。

アリーナとプールの両方があるスポーツ施設は、海部地域でも珍しかったこともあり、大きな反響を呼びました。まさに「スポーツ文化の潤うまちづくり」が本格的に始まったことを象



スポーツセンター（平成8年）



開館記念の招待試合 ユニチカ対日本電装の熱戦（平成8年）

徴するような施設でした。開館の年は1年間で延べ13万人以上の利用者を数えるほど注目を集めました。

スポーツセンターでは、スポーツ大



人気のあったプール（平成8年）



幼児用プールとスライダー（奥）（平成8年）

会やレクリエーション活動のほか、スポーツ教室などを行っています。フィットネス教室や水泳教室、小中学生を対象にした走り方教室などが人気です。

●令和8年に再出発

スポーツセンターの温水プールは、設備の不具合などにより、平成20（2008）年に利用を休止しました。

このプールの跡地を有効に活用するため、令和8（2026）年の完成に向け、大規模なリノベーション（改修）を進めています。子どもの憩いの場やカフェ、物販コーナーをつくり、町内外の人に広く利用してもらう計画です。

これまで利用が少なかった未就学児とその保護者にも、気軽に立ち寄ってもらえる場とします。小学生の体力づくりや中学生の放課後のトレーニングなどもでき、「公園や子どもの遊び場が少ない」という町民の声に応えた施設として生まれ変わります。

●庁舎の隣にあった町民体育館

昭和42（1967）年11月に村民体育館が完成し、昭和50（1975）年に町民体育館に名称を変更しました。

上に向かって広がる建築デザインが斬新だと評判でした。

町民体育館は、町の中心部にあり、利便性が高いため、スポーツだけでなく、文化や福祉などのイベントにも広く利用されていました。

また、大治小学校に隣接していたため、雨天時の体育や全校的な行事にも使われていました。

しかし、スポーツセンターができたことなどにより、平成18（2006）年に使用を中止しました。その後、取り壊し、平成27（2015）年から跡地を駐車場として利用しています。

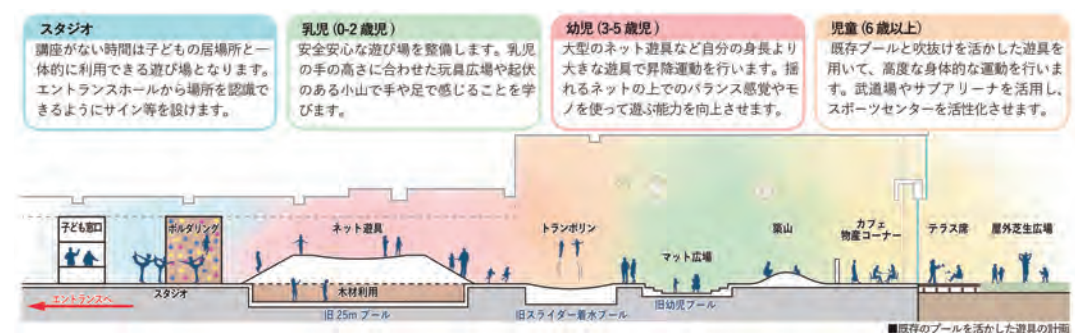


村民体育館（昭和49年）

●ナイター設備のある町営野球場

町営野球場は、当初は浄水場公園の北にありましたが、平成19（2007）年10月にスポーツセンターの西隣に

図6-3 スポーツセンター改修工事の青写真



少年団の運営が確立してくると、地域への移行が進み、地域の指導者のもとで活動をするようになりました。

小学4～6年生の児童が対象ですが、団の状況などにより、3年生以下も参加しています。

平成20年頃から、スポーツの多様化などにより、団員数も徐々に減少傾向が見られるようになりました。そこで、小学校ごとにある少年団を種目ごとに統合し、活動を続けています。

活発なスポーツ事業

●町民の期待を受けて走る駅伝大会

毎年、愛知縣市町村対抗駅伝競走大会（愛知駅伝）に参加しており、令和6年で17回を数えました。

愛知駅伝は、平成17（2005）年に開催された日本国際博覧会（愛知万博）を記念して始まりました。



たすきをつないで（令和6年）

表6-9 愛知駅伝での大治町の順位

開催回（年度）	順位	タイム
第1回（平成18年度）	10位	1時間45分27秒
第2回（平成19年度）	10位	1時間41分35秒
第3回（平成20年度）	7位	1時間45分50秒
第4回（平成21年度）	14位	1時間49分05秒
第5回（平成22年度）	11位	1時間48分39秒
第6回（平成23年度）	10位	1時間48分19秒
第7回（平成24年度）	8位※	1時間44分12秒
第8回（平成25年度）	13位	1時間53分19秒
第9回（平成26年度）	12位※	2時間00分15秒
第10回（平成27年度）	11位※	1時間45分54秒
第11回（平成28年度）	11位	1時間45分35秒
第12回（平成29年度）	11位	1時間49分56秒
第13回（平成30年度）	11位	1時間49分44秒
第14回（令和元年度）	14位	1時間49分33秒
第15回（令和4年度）	13位	1時間57分33秒
第16回（令和5年度）	11位※	1時間53分24秒
第17回（令和6年度）	8位	1時間53分11秒

順位は町村の部。※印は前年度よりも順位の上がったチームのうち、上がった順位数が多い上位3チームに授与される、モリコロ賞を受賞

愛・地球博記念公園内のコース約30kmを9区間に分けて、県内の全市町村が、市と町村の部に分かれて競います。

町では、毎年7月頃に区間に合わせた距離を走り、そのタイムを参考に、選手を選んでいます。

駅伝大会は、勝敗や記録だけでなく、各市町村との交流やスポーツの振興を目的としています。会場では、市町村の特産品を販売する「愛知ふるさと市」も開催され、にぎわいを見せています。

総合型地域スポーツクラブ「スポーツプラスおおはる」



世代を問わず楽しく運動

平成27（2015）年度に、新しいタイプのスポーツクラブ（総合型地域スポーツクラブ）として「スポーツプラスおおはる」を設立しました。

子どもから高齢者まで、自分に合った種目を選択し、それぞれの志向やレベルに合わせて参加できるスポーツクラブです。

年間講座と短期講座があります。年間講座では、卓球教室やエクササイズ教室など、短期講座ではとび箱教室やヨガ教室などがあります。

令和6年4月時点で、会員数は355人と多くの人々が受講しており、体力づくりや交流を深める場となっています。



無料体験講座（初めてのヨガ）



新体操教室（令和6年）